

「今求められる自治体の役割って、何？」

こう考えた💡

「今の自治体が抱える構造的・文化的困難を乗り越えられたとして、**私はどうありたいか**」

2024.02.19.まとめ

TO BE (どうありたいか)

主語、「自分」で生きる

➡「市」(組織)としてではなく、「私」(個人)として、地域に入って、地域の未来や課題を語れるようになる

業務と心に余裕を持つ！

➡今後、人員減や社会負担増などで、もっと仕事はきつくなる予報が出ているが、そんな時こそ、工夫して余裕を持つべし！

地域を科学し、地域のプロになる

社会のトレンドを捉える！

➡世界で何が起きているのか、それが自分の地域にどう影響があるのか、ちゃんとアンテナを張っておく

地域のアセスメントを徹底的に！

➡自分の地域は、今全国的に見て、どういう状態なの？どのレベルなの？目標値どれくらいなの？
➡統計の数字はあっても、データが放置されてる➡勝手に分析・調査しちゃうぞ！
➡EBPMの発想
➡そして地元の大学と組んで分析！コンサルに委託するより断然良い！

職員全員、営業マン。

ソトから来るリソースの窓口になる！

➡色々な企業が営業に来る！それを採用するかしないか、どう自分の地域に役立つかを考えられる存在になる
➡今は、「良く分からないから…」と、チャンスをロスすることが多いが、「分からなくても一旦受け取る」課をつくる

ソトからリソースを呼び込む営業マンになる！

➡「うちで実験してもらえたら、他の自治体でも横展開する」という逆営業をしていくことで、企業の実験場として活用してもらう
※人口減により、規模の小さい自治体は、大企業にとってはチャンスロスなので営業自体が減ってる現状

「伝える」を極める

地域をPRする意味を深める

➡人口が減る➡税収が減る➡究極自分の仕事がなくなるということ。地域を続けていくために何を、どう、だれに伝えたらいいのかを考えるべし
➡「内向けのPR」も工夫のし甲斐がある
➡地域に住む人に、地域にとってあなたは必要なんですと伝えよう

「生み出す」「育む」場を作る

対話の場、居場所になる

➡地域の人も自治体職員も、人と人として対話し、相互理解のを測る対話の場こそ、今必要なこと
➡そのためには「いかに効率化するか/合理的か」の判断軸を超える

やるべきことに注力する

不要な業務を率先してスクラップする！

➡不要な業務を持ち寄るワークショップは有効だった！若手職員は無駄を見抜く目を持っている！

未来へ投資するための予算を10%確保できる組織へ

➡「必ず新しいこと/おもしろいことをやる予算10パーセント」を付ける！未来への投資を計上する

町のプレーヤーからの相談からプロジェクトや事業をつくっちゃえ！

➡「おもしろい」を実現したい気持ちと行動をベースに考える
➡できない理由じゃなくて、できる理由を考える